



# 錯視の世界

## 北岡明佳

「立命館大学助教授」

最終回

## 「キャンデー」

これは、静止画なのに動いて見える錯視デザインです。

多くの皆さんに不思議がられます。静止画なのだから、動いて見えるはずがないからです。しかし、視覚研究の専門家は少し違ったことを不思議に思っています。なんと、静止画が静止画として見えることが不思議なのです。

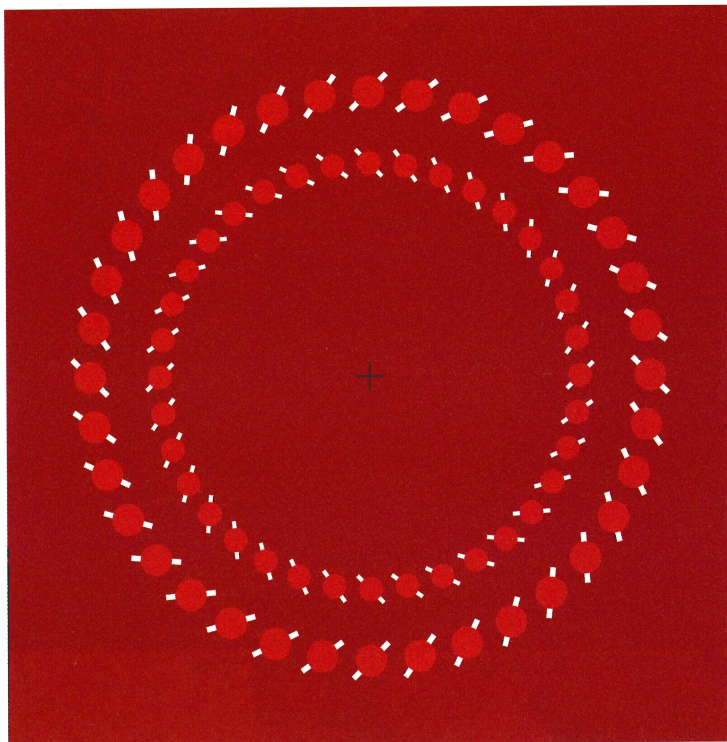
実は、われわれの目は、止めているつもりでも必ず動いています。つまり、目に映った像は常に揺れているのです。この揺れの問題は、カメラのシャッターを高速で切るよう

なメカニズムがあれば、解決できるのかもしれませんが、しかし、問題はそれだけではありません。大脳の視覚性のニューロン(神経細胞)の多くは、特定の傾きの線が刺激となって活動します。この性質からは、物体の動く方向を正しく判断できないにもかかわらず、静止画の部分部分がバラバラな方向に動いて見えることはありませぬ。それが専門家には不思議だったわけです。

「キャンデー」のような錯視デザインは、この問題を研究するのに向いています。

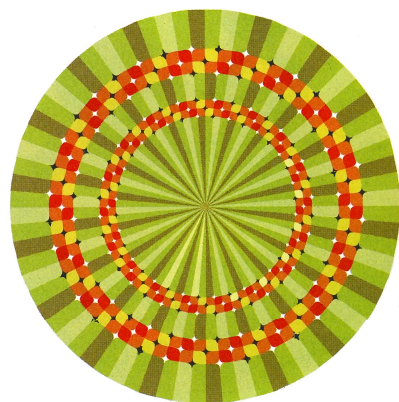
きたおか・あきよし

一九六一年、高知県生まれ。筑波大学大学院心理学研究科修士。教育学博士。二〇〇一年より現職に。錯視を使ったデザインという新ジャンルの構築・研究を重ねる。著書に史上初の錯視デザインの本「トリック・アイズ」(一、二巻。カンゼン刊)がある。



図の中心の十字を見つめながら、図に目を近づけたり遠ざけたりすると、キャンデーのリングがお互いに反対方向に回転して見える。『トリックアイズ』より

©Akiyoshi Kitaoka 2002; ©Kanzen 2002



「秋の沼の回転」

©Akiyoshi Kitaoka 2002

見方はキャンデーと同じ